

こたえ ウィリアム・テル

ひょうじゅん 標準 ①

ウィリアム・テル (スイスの伝説)

昔、スイスの人々は、外国から来た役人に、きびしく治められていました。役人のゲスラーは、広場の柱に自分のぼうしをかけ、通る人すべてに、そのぼうしにおじぎをするよう命じました。

ある日、弓の名人のウィリアム・テルが、むすこを連れて広場を通りかかりました。テルは、ぼうしにおじぎをせずに、通り過ぎようとしていました。

それを見たゲスラーは、テルをとらえて、言いました。「おまえのむすこの頭の上にりんごをのせ、それを矢でいぬいてみせよ。できなければ、親子ともども命はないぞ。」

テルは、むすこの頭から百歩はなれた所に立ちました。むすこは、父を信じて、身動き一つしませんでした。テルは、心を落ち着けて弓を引きしぼり、矢を放ちました。矢は、みごとにりんごを真つ二つにしました。テルのうでと、親子の信頼が、命を守ったのです。

人々は、大きな歓声かんせいを上げました。この出来事は、やがて、スイスの人々が自由を求めて立ち上がるきっかけになったと伝えられています。

1 ゲスラーは、広場の柱に何をかけましたか。

自分の

ぼうし

2 ゲスラーがテルをとらえたのは、どうしてですか。

テルが、ぼうしにおじぎをせずに通り過ぎようとしたから。

3 矢をいるとき、むすこはどうしていましたか。

ア こわくて、にげ出した。

イ 父を信じて、身動き一つしなかった。

ウ 目をつぶって泣いていた。

4 この出来事は、スイスの人々にとって、どんなきっかけになったと伝えられていますか。

自由を求めて立ち上がるきっかけ。